

学校法人湘南ふれあい学園 2026年度事業計画

目次

I 学校法人の概要	1
II 学校法人湘南ふれあい学園の教育指針	5
III 学校法人中長期計画	7
IV 2026年度事業計画の概要	8
V 各学校の事業計画の概要	12
VI 財政計画	21
VII 監査計画	25

I 学校法人の概要：

学校法人湘南ふれあい学園は「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」を理念とし、高度な専門知識と技術を修得する意欲を主体的に持ち、人と協働しながら、社会に奉仕でき、次世代のリーダーとなる保健医療人・社会人を育成することを目的とし、湘南医療大学、茅ヶ崎看護専門学校、茅ヶ崎リハビリテーション専門学校、湘南医療大学附属下田看護専門学校、医療ビジネス観光福祉専門学校、幼保連携型認定こども園みどり幼稚園を運営しています。本学園の各校各部門が教育理念に基づき、具体的な教育方針に則り、教職員等の人事計画、財政計画、組織運営計画等を事業計画に基づいて実施する所存です。

理念

『人を尊び、命を尊び、個を敬愛す』

その考えのもとに保健・医療・福祉・教育を担当し、そして、社会へ奉仕する事をめざすものです。わたしたちは、すべての人々のしあわせに、今、役立ちたいと願っています。

1 やさしさと思いやりのある保健・医療・福祉・教育の実践

2 ^{いのち}生命を全うしていただくための知識・技術の習得

3 その人らしさと個別性を尊重し敬愛す

わたしたちは、理念の実践者になります。

教職員の行動基準

1 使命

ふれあいグループの理念を基本として、地域の人々の幸せに役立つ保健・医療・福祉・教育を保障するために、専門職的で倫理的な医療と教育を行なうべく最大限の努力を尽くす。

2 地域社会への貢献

ふれあいグループの医療と教育機能を地域の医療・教育体系に連携し、効率的な地域サービスの成果を挙げることに努める。

3 研修と教育

教育者としての研修に励み、ふれあいグループとして提供できる医療教育水準の向上と後進の教育に努める。

4 記録と守秘義務

記録を完備し確実に管理するとともに、職務上知り得た個人の秘密は厳守する。

5 管理運営

学生中心の教育の心構えを堅持し、ふれあいグループが地域社会に必須の医療並びに教育施設として存続できるよう、公正で合理的な管理運営に努める。

事業基本方針

1 私たちは、PDC 活動により学校経営に全職員が参画し、さらなる発展を目指します。

2 私たちは、学生・園児に最適な教育サービスをタイムリーに提供します。

3 私たちはやさしさ、思いやりと気配りのある態度で仕事をします。

全教職員参加

- 1 PDC 活動の推進（部門・個人 PDC の精度向上）
- 2 安全管理体制の強化（委員会活動の活性、規程類の再点検）
- 3 FD・SD 活動、全体研修活動の推進（授業内容、職務内容の改善による教育水準の向上）
- 4 業務改善運動の推進及び6 S活動の実践
業務遂行の効率アップによる時間外削減及び時間の有効活用、整理・整頓・清掃・清潔・しつけ・作法の取り組み強化

法人の概要

- 1 設置する学校（学校名・学部・学科・専攻等・開設年度）

学校名	学部・学科・専攻等	開設年度	
湘南医療大学	看護学科	2015年	
	保健医療学部 リハビリテーション学科		理学療法学専攻 作業療法学専攻
	薬学部 医療薬学科		2021年
	大学院 保健医療学研究科	修士課程	2019年
		博士後期課程	2024年
	専攻科	公衆衛生看護学専攻 助産学専攻	2022年
	別科	介護福祉別科	2025年
幼保連携型認定こども園 みどり幼稚園	1 歳児、2 歳児、3 歳児（年少）、4 歳児（年中） 5 歳児（年長）	1949年 ※2017 年より幼保連 携型認定こども園	
茅ヶ崎看護専門学校	看護学科	1994年	
茅ヶ崎リハビリテーション 専門学校	理学療法学科（2026年4月入学生募集停止）	1998年	
	作業療法学科（2025年4月入学生募集停止）		
	言語聴覚学科（2026年4月入学生募集停止）		
	社会福祉専攻科（付帯教育事業）		
湘南医療大学附属 下田看護専門学校	看護学科	2004年	
医療ビジネス観光福祉 専門学校	医療・ツーリズムビジネス学科	2014年	
	介護福祉学科	2019年	
	介護福祉士実務者研修（付帯教育事業）		

[湘南医療大学]

学部・学科・専攻等		入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数2026.4.1						2025年度 卒業生数	
					1年	2年	3年	4年	5年	6年		
保健 医療 学部	看護学科*	165	585	178	183	163	143	129	/	/	130	
	リハビリテ ーション 学科	理学療法学 専攻**	60	180	58	58	49	40			39	38
		作業療法学 専攻	40	160	31	31	40	36			39	33
薬学部	医療薬学科** *	100	750	69	73	51	56	68	51	26	/	
大学院 保健医 療学研究科	修士課程	12	24	12	13	15	/	/	/	/	5	
	博士後期課 程	3	12	4	4	3					6	/
合計		380	1,711	352	362	321	281	275	51	26	481	

*2026年4月より入学定員165名 **2026年4月より入学定員60名 ***2026年4月より入学定員100名

専攻名		入学定員	収容定員	入学者数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	2025年度 修了生数
専攻 科	公衆衛生看護学専攻	20	20	20	20	/	/	/	/	/	20
	助産学専攻	15	15	15	15						15
合計		35	35	35							35

名称		入学定員	収容定員	入学者数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	2025年度 修了生数
別科	介護福祉別科	40	80	44	44	21	/	/	/	/	/

[幼保連携型認定こども園みどり幼稚園]

認定区分	入学定員	収容定員	在園者数2026.4.1						2025年度 卒園生数
			1歳児	2歳児	年少 (3歳児)	年中 (4歳児)	年長 (5歳児)		
1~3号認定	—	218	8	10	40	47	57	63	
合計	—	218	8	10	40	47	57		

[茅ヶ崎看護専門学校]

学科名	入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数2026.4.1			2025年度 卒業生数
				1年	2年	3年	
看護学科	40	200	23	28	39	58	66

[茅ヶ崎リハビリテーション専門学校]

学科名	入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数2026.4.1				2025年度 卒業生数
				1年	2年	3年	4年	
理学療法学科	70	210	/	/	41	50	66	50
作業療法学科	30	60		/	/	7	18	12
言語聴覚学科	35	35		/	28	/		24
合計	135	305		/	/	69	57	84

(付帯教育事業)

科名	入学定員	収容定員	入学者数	1年目	2年目		2025年度 修了生数
社会福祉専攻科	80	160	28	28	48	/	34

[湘南医療大学附属下田看護専門学校]

学科名	入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数2026.4.1			2025年度 卒業生数
				1年	2年	3年	
看護学科	30	100	13	14	5	16	20

[医療ビジネス観光福祉専門学校]

学科名	入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数2026.4.1		2025年度 卒業生数
				1年	2年	
医療ツーリズム・ビジネス学科	40	80	29	29	40	17
介護福祉学科	60	120	60	63	49	47
合計				92	89	64

(付帯教育事業)

介護福祉士実務者研修	30	30×3	—	—	/	—
------------	----	------	---	---	---	---

3 人事計画及び組織

(1) 人事計画

各校（園）の事業計画を達成するために資質の高い人材を登用し、全教職員が理念の実現に向けて教育研究活動の維持向上に努め、社会の要請に応え一層の強化を図ることができ

る組織を編成するため、各部署の適正人員数の配置を進める。

(2) 職員配置

2026年度の各学校別の専任教職員数（常勤換算数）は以下のとおりとする。尚、大学は、教授、准教授、専任講師、助教、助手の内訳を記載する。

	2026年度現員（2026.4.1）		計
	教員	職員	
湘南医療大学	126	57	183
幼保連携型認定こども園みどり幼稚園	25	2	27
茅ヶ崎看護専門学校	16	5	21
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	22	8	30
湘南医療大学附属下田看護専門学校	10	4	14
医療ビジネス観光福祉専門学校	12	5	17
法人本部	—	4	4
計	211	85	296

[湘南医療大学]

学部	学科・専攻	教授		准教授		講師		助教		助手・専任教員		計		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
保健医療学部	看護学科	3	12	0	7	3	7	3	7	0	1	9	34	
	リハビリテーション学科	理学療法専攻	7	0	1	1	4	0	1	0	0	0	13	1
		作業療法専攻	3	0	3	0	1	2	1	1	0	0	8	3
薬学部	医療薬学科	16	1	6	5	7	1	4	1	2	0	35	8	
計		29	14	10	14	15	10	9	10	2	1	65	49	

大学院保健医療学研究科（修・博）	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	3
兼任	11	9	2	7	0	2	0	0	0	0	0	13	18
計	12	10	2	9	0	2	0	0	0	0	0	14	21

専攻科	0	0	0	3	0	1	0	1	0	1	0	0	6
兼任	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	3	0	1	0	1	0	1	0	0	6

学科・専攻	教授		准教授		講師		助教		専任教員		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
別科	0	0	0	0	1	1	0	0	0	3	1	4

II 学校法人湘南ふれあい学園の教育指針：

1 教育力を高める活動

I 学園各校は、教育力を高め、学生の学習力や学力の質保証を達成させると同時に、学力の到達度の確認・点検を行うための活動として、FD/SD 活動を実践しています。教職員は、学生の学習力を引き出し、やる気を目覚めさせ、卒業目標(ディプロマ・ポリシー)にかなう最高の人材養成教育を行うと同時に国家試験に合格する教育を実践する。

II 教員は、担当授業科目においてカリキュラムポリシーに沿った水準を超える学力を達成するために情熱をもって教育し、学生が理解できるように教え方を工夫する。また、学生の毎日の勉強の習慣づくりを指導する。

2 教員の資質を高める活動

1) 中央教育審議会答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」(平成24年8月28日)(抄)「2. これからの教員に求められる資質能力」において、教員は、不断に最新の専門的知識と指導技術等を身に付けていくことが重要となっており、「学びの精神」がこれまで以上に強く求められていることが以下に示されています。本学園も、その答申の趣旨に沿って、教員の資質を高める活動を実践する。

I 教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力(使命感や責任感、教育的愛情)

II 専門職としての高度な知識・技能

・教科や教職に関する高度な専門的知識(グローバル化、情報化、特別支援教育その他の新たな課題に対応できる知識・技能を含む)

・新たな学びを展開できる実践的指導力(基礎的・基本的な知識・技能の習得に加えて思考力、判断力、表現力等を育成するため、知識・技能を活用する学習活動や課題探究型の学習、協働的学びなどをデザインできる指導力)

・学修指導、学生指導、学部学科経営等を的確に実践できる力

III 総合的な人間力(豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、チーム力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力)

2) 21世紀の大学像と今後の改革方策について-競争的環境の中で個性が輝く大学-(答申要旨 平成10年10月26日大学審議会)における教育方法等の改善の中、「授業の設計と教員の教育責任」を実践します。特に、本学園の教員は教室や実習室における授業だけでなく、授業の前提として読んでおく文献を指示する等学生が事前に行う準備学修・復習についても指示を与え、実際の現場で躓かないように実習前には学内でのシミュレーション実技を繰り返し指導するなど授業設計や学修指導内容を策定する。

3 学生の人間性を高める活動

1) 理念「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」の実践できる学生を教育する。

2) 本学園は、人間性を高める教育活動として、湘南医療大学であれば、「総合教育科目」の科目群、看護・医療系専門学校であれば「科学的思考の基礎と人間と生活、社会の理解」の科目群において、人間形成のために必須な科目を学修し、心の成長につなげる。各校では、文学、倫理学など初年次教育にこれらの科目を履修することにより涵養され、医療従事者として必要な資質の形成を目指す。

また、学生の積極性と社会性を涵養する教育の一貫として、学園全体で行うクリスマスキ

チャロリングは、感染症拡大防止により、病院施設に出向く方式から、患者様利用者様にメッセージやクリスマス飾りをお送りする方式に変更し、自宅と異なる環境で年末年始を過ごす方の気持ちを考え、それらの方たちにお送りするメッセージを考えることで、医療人を目指す学生としての人間形成に大いに役立っている。社会に貢献し、人との繋がりを感じ、知見を広げることが将来の医療活動に大きな意義をもたらす活動として継続する。

3) 本学園は、ふれあいグループ病院施設と連携して、公開講座、保健医療福祉に関わる学園広報活動及びイベントを実施します。今後も、地域連携活動に参加し、地域の方々を支援する活動を通して社会貢献を行い、協力精神を学ぶ。

教員は、医療従事者をを目指す学生に、授業での教育の効果を指すだけでなく、どのような過程を踏んでその学生が学問的に、人間的に、成長していくかを考えて、学修や学生生活に関するアドバイザーとして、学生の成長に貢献する。

4 学生の将来につながる指導力の発揮

教員は、医療従事者をを目指す学生に、授業での教育の効果を指すだけでなく、どのような過程を踏んでその学生が学問的に、人間的に、成長していくかを考えて、学修や学生生活に関するアドバイザーとして、学生の成長に貢献する。

Ⅲ 湘南ふれあい学園中長期計画：

湘南ふれあい学園は、2019 年度を初年度とする中長期事業計画を掲げ、2026 年度は、2023 年度から始まる 5 年間で第 2 期事業期間とし、更に地域社会に必要とされ貢献できる学園運営を推進する。

第 2 期事業計画（2023 年度～2027 年度）

中期事業方針：主体性、多様性及び協働性の強化により、「学修者本位の教育力」を結集し、学園設置校としての「総合力」を育む

1. 教育ビジョン

- (1) 高い倫理観と高度な知識技術を修得した人材を育成するため、学園の理念に基づいた教育プログラムを充実させる。
- (2) 医学・医療的機能のみならず、全人的に理解する教育を実践する。
- (3) 地球規模の視野で考え、地域視点で行動できる生涯教育システムを確立する。
- (4) 高度な専門性を有する教育者と研究者を育成する。(大学・大学院)
- (5) 多職種協働・連携を支えるチーム医療教育を推進する。
- (6) 社会的・職業的自立に必要な能力を養うための「教育の内部質保証」を推進する。

2. 研究ビジョン（大学・大学院）

- (1) 高い倫理観に基づく研究活動を推進する。
- (2) 特色ある研究を行うために看護・医療・薬学分野横断的な基盤をふれあいグループの病院と確立する。

- (3) 地域社会の保健・医療・福祉に貢献できる研究活動を推進する。
- (4) 研究ネットワークを多様化させて、成果を広く社会に発信する。
- (5) 研究活動を通して、競争力を持ち、豊かな人間性を有する人材を育成する。

3. 地域連携・社会貢献ビジョン

- (1) 地域社会に開かれた教育機関として、各校の英知を地域社会に還元する。
- (2) 地域社会と連携し、本質的ニーズを見極めて、より良い未来の創造に寄与する。
- (3) 人々が安心して暮らせる豊かな地域社会（コミュニティ）の形成に貢献する。

4. 管理運営ビジョン

- (1) 学園全体が一体となるガバナンスに基づく、公正な判断とバランスある運営を行う。
- (2) コンプライアンス（法令順守）を推進する。
- (3) 教育・研究の質的水準を維持する管理運営組織を確立する。
- (4) 教職員の一体感、意欲の向上、並びに個々の成長を促進する組織を目指す。
- (5) 入学定員を確保できる効果的な入試改革・募集広報活動を実践する。
- (6) 中長期的財政基盤を確立する。

（参考）第3期事業計画期間：2028年度～2032年度

学園中期事業方針：湘南ふれあい学園は、地域社会に対して主体性、多様性及び協働性を示して、保健、医療、福祉、教育が連携する「湘南ふれあいブランド」を構築する。

IV 2026年度事業計画の概要：

(1) 中長期計画ビジョンを達成するための2026年度の目標（湘南医療大学・大学院）

○組織、運営に関する目標

1) 学部等の新設

- ・専攻科言語聴覚学専攻（仮称）の設置

茅ヶ崎リハビリテーション専門学校言語聴覚学科の組織変更を計画。文部科学省医学教育課へ指定学校申請を行う。

2) 教職員の充実

- ・若手中堅事務職員の計画的補強と定着率の向上
- ・教職員の欠員補充
- ・学園設置校間における事務職員の異動の促進
- ・教員の年齢別、専門分野別の適正配置に関する計画
- ・若手教員の育成

3) 業務の効率化

・研究科、学部、学科（専攻）、事務部並びに4キャンパス（保健医療学部・薬学部・横浜山手校舎・藤沢校舎・茅ヶ崎校舎）の業務処理方法の効率化と迅速な各種手続きの簡素化

4) 補助金の獲得

- ・ 経常経費補助金の獲得増と私立大学等改革総合支援事業の採択（IR の強化）

○教育、研究の活性化に関する目標

1) 教育内容の改善

- ・ 国家資格合格率 100%を達成するための教育及び学修支援
- ・ CBT（実務実習前評価試験）、OSCE（薬学共用試験）に合格に向けた受験準備教育強化
- ・ 薬学部学生の能力や理解進度に合わせた授業/補講（Sプログラム）の継続
- ・ 医系科目の再編（非常勤講師中心から専任教員への転換）
- ・ 初年次教育指導の再検討（道徳心、勉学の心構え、大学生活等）
- ・ 教育内容の平準化に向けた検討（教育力、試験内容他）

2) 教育方法の改善

- ・ DP・CP・APに基づく学修者を養成のために、教学マネジメント会議を設置。
- ・ ポートフォリオ（教育業績記録）に加えて、ディプロマサプリメント（成績証明書付加情報）を導入する。（課程履修の状況、卒論、GPA 推移、獲得スキル、資格取得、表彰など）
- ・ 授業デザイン計画にもとづく「学生を惹きつける授業」の研修
- ・ アクティブラーニング形式（能動的双方向授業）の積極的な導入
- ・ 学生・院生が理解できる「シラバス」の見直し
- ・ 授業評価（アンケート）に基づく授業改善、教育活動改善への活用
- ・ 大学院生教育の一環としてティーチングアシスタント（TA）制度を導入する。

3) 研究の活性化

- ・ 外部研究資金導入の促進（全員申請、毎年 20%以上の採択率の獲得）
- ・ 科学研究費、各種外部研究奨学費、受託研究等の奨励、推進のための支援の充実
- ・ 研究不正防止計画の遵守（研究倫理 eラーニングシステム受講の徹底 受講率 100%）
- ・ 大学・グループ病院間の共同研究の促進
- ・ 大学ブランディング研究の継続（がん看護、フレイル、認知症研究など）

○新規施設等の整備に関する目標

1) 第2 茅ヶ崎キャンパス整備

2027年4月専攻科言語聴覚学専攻（仮称）：校地・校舎は、現茅ヶ崎リハビリテーション専門学校内に整備。

○教育・研究用備品等の更新・整備に関する目標

1) 教育・研究用機器の重点整備

○自己点検評価及び情報公開に関する目標

1) 授業評価に関する目標

- ・学生授業評価アンケート項目の見直し
- 2) 研究業績の評価に関する目標
 - ・学内外への研究者の研究活動を積極的に公表する。
- 3) 外部評価及び自己点検評価に関する目標
 - ・薬学教育認証評価（2028年度）の受審体制の整備と準備を推進する。
 - ・日本高等教育評価機構（2028年度）の新評価制度への対応と IR データの集積
- 4) 学生募集の評価に関する目標
 - ・入学時アンケート項目の変更及び活用
- 5) キャリア開発・就職の評価に関する目標
 - ・卒業後アンケート調査の徹底及び改善
- 6) 情報公開に関する目標
 - ・教育、研究企画、イベント、成果等の外部公開（HP）の促進

○地域連携及び社会貢献に関する目標

- 1) 実習施設との連携の強化
 - ・本学の実習受け入れ病院施設等との連携強化（継続）
 - ・実習施設が抱える実際的问题について共同研究を促進する。（継続）
- 2) 地域貢献
 - ・地域が開催するイベント等への積極的な参加
 - ・医療、看護、リハビリテーション、薬学等に関する地域支援ネットワークの構築
 - ・公衆衛生、健康増進・予防、心身機能障害、周産期母子医療に関する地域支援
 - ・病院施設の患者さんにクリスマスキャロリングの開催（継続）

○入試、広報、学生募集の改善に関する目標

- 1) 入試制度の改善
 - ・全学入試制度の見直し（受験したいと思える大学）
 - ・アドミッションポリシーの再確認
- 医療人としての適性を有する人材の早期確保のための入試制度の再検討
- 2) 学生募集・広報体制の改善
 - ・ホームページ、SNS の活用（受験生、保護者、高校教員、予備校のニーズへの対応）
 - ・募集広報地域の範囲拡大、対象、方法等の見直しとデジタル化
 - ・ふれあいグループ施設との連携した募集活動。（病院見学、医療従事者と協働する OC）
 - ・高大連携事業の強化（連携協定を促し、出張講義、研究室訪問などの企画を実施）

○学生生活、修学及び就職等の支援強化に関する目標

- 1) 学生生活、修学支援（継続）

- ・ふれあいグループ奨学金制度の推奨
- ・休退学者減少への取り組み（チューター制度の充実）
- ・学生の「心の相談」への対応窓口・カウンセラーの体制
- ・大学理解のための保護者会を定期的に開催する。

2) 就職・キャリア支援（継続）

- ・グループ就職説明会、個別就職相談、先輩の体験・アドバイスの活用
- ・就職先施設との情報交換会（学生・実習指導者・教員）
- ・連携同窓会の諸活動との連携の強化

○その他の目標

1) 安全管理・危機管理体制の整備（新規取組）

- ・盗難、災害に対するマニュアルの更新、安否の対策、防災備蓄等、必要な整備を行う。
- ・年2回の避難訓練の開催
- ・オープンラボ、実習室、動物実験、薬物管理等の安全管理マニュアル整備、安全教育
- ・学内コンピュータシステムのセキュリティの確保体制の強化

(2) 中長期計画ビジョンを達成するための2026年度の目標(専門学校及び認定こども園)

1) 茅ヶ崎看護専門学校、湘南医療大学附属下田看護専門学校、茅ヶ崎リハビリテーション専門学校

- ・国家試験100%合格に向けた対策
- ・休退学率の減少対策（補講、学生相談等）
- ・大学並びにグループ病院施設と連携した運営
- ・学生確保（茅ヶ崎看護専門学校）のための施策（学費、学生寮費の見直し）
- ・教育職員の確保

2) 医療ビジネス観光福祉専門学校

- ・介護福祉学科の教育指導（特に留学生）の充実
- ・医療・ツーリズムビジネス学科の教育内容の充実
- ・留学生対応（日本語補講教育・グループ病院施設でのアルバイト斡旋、学費減免補助）

3) 幼保連携型認定こども園みどり幼稚園

- ・園舎の老朽箇所の修繕（継続）
- ・教育職員の確保対策

(3) 湘南医療大学及び学園が設置する4専門学校の2026年度の重点目標項目 ～重点目標項目、教育の展開、具体的な取り組みの指標、事業計画概要～

湘南医療大学・重点項目（全学共通）

2026年度 事業計画の重点目標項目		具体的な取り組み内容	目標数値・指標
看護学科	①キャリア開発と実装に向けた看護教育体制の構築	1. 看護学科看護実践力育成のためのコンピテンシー基盤型教育の充実と発信 2. キャリアバリエーション型の看護教育コースの創設 1) 大学院および看護キャリア開発コアセンターとの連携による看護キャリア支援型コースの充実 ・学部と大学院修士課程（助産コースと高度実践看護師コース）の連動 ・修士課程と博士課程のキャリア開発型の連携	
リハビリテーション学科	①安定した理学療法専攻、作業療法専攻学生確保とその方略の確実な実施	少子化による志願者減少の中で、リハビリテーション学科 理学療法専攻・作業療法専攻の魅力を高専生および保護者に効果的に発信し、志願者数の増加と安定的な入学確保を図る。 ①入学後の学びや卒業後の活躍の場を可視化して提示し、高校訪問の充実強化する。 ②オープンキャンパスでは理学療法専攻作業療法専攻の学びのコースを明示し、在学生との交流の場を設定し親しみのある雰囲気の醸成を図る ③リハビリテーション学科の教育力（国試理学療法専攻作業療法専攻とも100%合格）、グループ付属16病院との連動した臨床教育力の提示。 ④SNS等による情報発信を推進し、学科の認知度向上と志願者層の拡大を目指す。（SNSは年間計画に基づき定期的な教育内容等のアップ） ⑤重点校の高校訪問・進路指導教員との連携強化 高校訪問の際には、当該校からの在学生や卒業生の現状を紙面等で提示する	
② 改 革 経 常 費 支 援 助 事 業 の 獲 得 増 及 お お 私 立 大 学 等 目	1. 全学的な教学マネジメント体制構築及びアセスメントプランの策定	学長を中心とした、全学的な教学マネジメントの体制において、教職員の業務内容の整理・点検し、以下の取組を行う。 A IR情報を活用し、教育課程の適切性検証と教育改善を行うサイクルを運用する。 B 大学全体レベル、学位プログラムレベルで大学教育の成果をアセスメントプランに則り点検・評価を実施する。 ・学部を超えた教学マネジメント体制構築（学長・保健医療学部長・薬学部長・学科長・各学科カリキュラム編成担当教員他） ・会議体の設定（教務委員会・自己点検委員会） ・会議体の組織規程作成 ・カリキュラムの点検・評価スケジュール ・アセスメントプランの策定（大学全体・学部ごと） ※入学時（AP）、年次進行中（CP）、卒業時（DP）関連と達成度の相関を可視化し得る体制をICTを活用し構築する。	
	2. 学修成果等の可視化・企業等との意見交換	ディプロマサブリメント（学位証書や成績証明書の補足資料）など、各学生が修得した知識や能力等を明らかにするための取組を実施する。 ・ディプロマサブリメントの様式案の作成 ・グループ病院施設との意見交換会実施 ・外部のアセスメントテスト（PROGテスト）を1年次と4年次に行い、4年間の学修成果の評価を行う。 ・ICTツール活用し、学習成果を効率的に可視化する体制を構築する。	
	3. IR情報を活用した教学改善の検討（教務の改善）	ICTツールを導入し、学生に関する様々なデータの収集・分析を実施し、情報の提供を行うための専門職を配置するとともに、教学IRをきっかけとする教学改善の事例を情報公開する。 ・IR部門にて、IR情報を用いて、教学改善を検討し、実施する。 - 各種アンケート + 回収率向上の施策検討 + 横断的な分析（個別評価からの移行） 授業改善（個別および平均）の効果測定 - 定期テスト、追再試の詳細データおよび出席率、遅刻率とGPAとの関係 - 入学後プレイスメントテストの結果を用いた初期能力の把握とGPAとの関連分析 ・上記を用いた不振項目への早期介入 ・外部研修会に講師として参加、他大学等への普及に向けた取組。	
	4. 高等学校教育と大学教育の連携強化	4. 高等学校教育と大学教育の連携強化 ・大学等における学修を高専生が経験する取組（合同授業等）の実施 ・高等学校又は教育委員会との年2回以上の定期的な意見交換体制の構築 ・高等学校と大学等との合同研修の実施 ・高等学校と連携した入学前教育の実施 ・全重点校訪問・広報活動推進	
	5. ICTを活用した教育の計画、体制整備及び双方向型授業や自主学習支援などの実施	1. ICTを活用した質の高い教育を実現するための全学的な計画 ・教育の質向上：対面×デジタルのハイブリッドによる専門職連携教育の高度化 ・環境整備計画：学内Wi-Fi整備と（個人端末持込）の推奨とサポート体制構築 ・技術・教育支援体制：サポートデスク/ICT教育支援室的な体制整備 ・セキュリティ：医療情報を取扱う倫理に基づいた多要素認証の導入と、学生・教職員へのリテラシー教育 2. 支援体制の整備：『ICT教育支援室（またはヘルプデスク）』の設置と周知 3. 双方向型授業の実装：シラバスへの明記とクリッカー活用 4. 自主学習支援：LMS（学習管理システム）による「学習ログ分析」	
③授業評価等の結果を生かした授業改善、教育活動改善への活用	「学生による授業評価」学生の理解状況を教員が次の授業に生かせるようなリフレクションペーパーを作成するとともに評価の低い授業科目は、担当教員から改善計画書の提出を求め、結果を教務委員会で審議する。 また、卒業時や卒業後のアンケート調査の実施後、学生の成長実感や今後の課題等を把握し、教育活動の改善に反映させる方策を講じる。	授業評価アンケート専門科目 総合平均数値 [看護] 4.40以上、[理学] 4.60以上、[作業] 4.60以上 ※【参考】2024年度 [看護] 4.99、[理学] 4.61、[作業] 4.66	
④学修支援・国家試験対策支援	・学修支援の充実 新入生の入試等の成績で基礎学力を見極め、入学前教育や個別の学修支援に役立てる。また、全学において、1教員が10名程度の学生をサポートし、履修計画から修学指導、学生生活相談などにきめ細やかに個別で対応する。 ・国家試験対策 小テストなどの反復問題練習や国家試験の基礎的な学力問題も解かせることも行い、低学年から計画的な国家試験受験対策を実施する。国家試験対策に必要な事業の企画・実施、カウンセリング及び情報収集・提供等を行い、国家試験合格率の向上を図る。	③学修支援・国家試験・CBT/OSCE対策支援 「共通」国家試験合格率100% 「薬学部」OSCE合格率100%、CBT得点率全国平均以上	

湘南医療大学・重点項目（全学共通）

2026年度 事業計画の重点目標項目	具体的な取り組み内容	目標数値・指標																																																											
⑤各学部の定員確保	<p>過年度の入学者及び2026年度入学選抜の年内出願者データより出願実績校（以下、「重点校」と言う。）に対して重点的に学生募集活動を行い、本学独自の学生募集の在り方を創造し、それを伝統とする。</p> <p>a、重点校の見直しと連携強化 ・指定校推薦枠の保証・拡大する。 ・3学科共通重点校を増やし出張講義・医療系セミナーを充実させる。</p> <p>b、オープンキャンパスを充実する。 ・オープンキャンパスにおける模擬授業や実習体験参加実績を総合型選抜に活用する。</p> <p>c、ホームページやSNSなどによる広報の充実 ・Instagram、X、LINEにおいて教員紹介のショート動画や授業紹介を積極的に行っていく。</p> <p>d、本学のブランド力の向上 ・本学にしかできない医療系複数学科の連携（チーム医療）を体験・実感できる環境 ・臨床実習をサポートするグループ病院の存在 ・入学前教育、チューター制による手厚い学修支援</p>	<p>【保健医療学部 定員265名確保】 定員確保に向けて年内入試の充実を図る。</p> <p>①年内入試にて重点校より以下のとおり出願者を確保する。 ・看護学科 105名(2025年度：92名) ・理学療法専攻 33名(2025年度：21名) ・作業療法専攻 24名(2025年度：18名)</p> <p>②全体資料請求者数： 5000人(2025年度予測値：4500人)</p> <p>③オープンキャンパス参加者数： 1535人(2025年度：1384人)</p> <p>④年内入試における重点校からの出願歩留率（オープンキャンパス来場者→出願） ・看護学科 20% (2025年度：18%) ・理学療法専攻 15% (2025年度：12%) ・作業療法専攻 30% (2025年度：26%)</p> <p>⑤出願者数年間580人 → 定員265名確保 ・看護学科 375名（うち年内入試：145名） ・理学療法専攻 155名（うち年内入試：55名） ・作業療法専攻 50名（うち年内入試：33名）</p>																																																											
⑥休退学者減少への取組	<p>・本学の休退学者減少への取組 ・学生の学力や学習意欲を向上させるための教育プログラムや指導体制を充実させる。 ・学生の居場所や人間関係を作るためのコミュニティやチューターを提供する。 ・学生のメンタルヘルスや生活支援を行うための相談室や経済的支援を拡充させる。 ・ハラスメント対策として、学生が相談しやすい環境提供のため、ハラスメント相談員を教員のみならず、事務からも選任する。 ・学生の進路・キャリア教育に関する情報を早い段階で提供し、相談体制を充実させる。</p>	<p>・中退率：休・退学者率1.0%以下</p> <table border="1" data-bbox="1480 875 1984 1157"> <thead> <tr> <th colspan="2">単位：%</th> <th>FY21</th> <th>FY22</th> <th>FY23</th> <th>FY24</th> <th>av.21-24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">退 学 率</td> <td>看護学科</td> <td>0.3%</td> <td>3.0%</td> <td>1.6%</td> <td>2.4%</td> <td>1.7%</td> </tr> <tr> <td>理学療法</td> <td>3.5%</td> <td>3.5%</td> <td>1.2%</td> <td>2.9%</td> <td>2.6%</td> </tr> <tr> <td>作業療法</td> <td>4.8%</td> <td>1.2%</td> <td>7.7%</td> <td>5.3%</td> <td>4.7%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">休 学 率</td> <td>保健医療学部</td> <td>2.2%</td> <td>2.7%</td> <td>2.8%</td> <td>3.0%</td> <td>2.6%</td> </tr> <tr> <td>看護学科</td> <td>1.7%</td> <td>1.8%</td> <td>1.8%</td> <td>2.1%</td> <td>1.8%</td> </tr> <tr> <td>理学療法</td> <td>4.0%</td> <td>2.3%</td> <td>1.8%</td> <td>2.9%</td> <td>2.4%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>作業療法</td> <td>3.6%</td> <td>3.1%</td> <td>7.1%</td> <td>1.9%</td> <td>4.5%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>保健医療学部</td> <td>2.6%</td> <td>2.1%</td> <td>2.8%</td> <td>2.2%</td> <td>2.5%</td> </tr> </tbody> </table>	単位：%		FY21	FY22	FY23	FY24	av.21-24	退 学 率	看護学科	0.3%	3.0%	1.6%	2.4%	1.7%	理学療法	3.5%	3.5%	1.2%	2.9%	2.6%	作業療法	4.8%	1.2%	7.7%	5.3%	4.7%	休 学 率	保健医療学部	2.2%	2.7%	2.8%	3.0%	2.6%	看護学科	1.7%	1.8%	1.8%	2.1%	1.8%	理学療法	4.0%	2.3%	1.8%	2.9%	2.4%		作業療法	3.6%	3.1%	7.1%	1.9%	4.5%		保健医療学部	2.6%	2.1%	2.8%	2.2%	2.5%
単位：%		FY21	FY22	FY23	FY24	av.21-24																																																							
退 学 率	看護学科	0.3%	3.0%	1.6%	2.4%	1.7%																																																							
	理学療法	3.5%	3.5%	1.2%	2.9%	2.6%																																																							
	作業療法	4.8%	1.2%	7.7%	5.3%	4.7%																																																							
休 学 率	保健医療学部	2.2%	2.7%	2.8%	3.0%	2.6%																																																							
	看護学科	1.7%	1.8%	1.8%	2.1%	1.8%																																																							
	理学療法	4.0%	2.3%	1.8%	2.9%	2.4%																																																							
	作業療法	3.6%	3.1%	7.1%	1.9%	4.5%																																																							
	保健医療学部	2.6%	2.1%	2.8%	2.2%	2.5%																																																							
⑦FD・SD研修の充実	<p>・本学理念及び今年度方針を実現すべく、FD・SD活動を通し教職員の質の向上を行う。</p> <p>a. 全体研修会（大学部会） ア. 全員参加の5つの活動（PDC、業務改善、全体研修会、朝礼、6S）推進。 イ. 教員授業の改善：授業評価アンケート、リフレクションペーパー、授業観察とフィードバック等を活用し、授業の質を高める。 ウ. 休退学者の減少：休退学要因を分析結果に則した対応策を構築し、チューター教員への指導を徹底する。 エ. 学生募集：オープンキャンパスを充実させると共に、重点校へきめ細かなアプローチにより連携を強化し出願者拡大につなげる。</p> <p>b. 医療・教育研究科会：医療教育に関する研究を促進し、その研究成果の発表することで、教育の質の向上に繋げる。</p> <p>c. 学科研修「自律的な学生を育てる取り組み」 教育の質の向上を図るべく、次の手法を活用して学生が主体的且つ能動的に学ぶ環境を構築する。</p> <p>「自ら課題を見つけ、学び・考え、主体的に判断・行動し問題を解決出来る資質・能力」を育む授業実施 ・ディベート：意見交換を通じた論理的思考力の鍛錬 ・ピア・インストラクション：学生同士の学び合い促進 ・復習テスト：学習内容の定着。 ・ケースメソッド：実事例を基に課題解決力を養成。 ・PBL（課題基盤型学習）：問題解決を目的としたプロジェクト学習 ・反転授業：授業前に学習し授業中に深掘りや応用</p>	<p>【数値目標】</p> <p>①全体研修会（大学部会）：年間：5回 ②医療教育研究会：年間：2回 ③各学科・専攻FD研修会 看護学科：年回：10回 リハビリテーション学科：年回：9回 (理学4回、作業4回、合同1回)</p> <p>*各研修会の教職員参加率：100%</p>																																																											
⑧3つのポリシーを踏まえた自己点検・評価及び認証評価への取組	<p>・自己点検・評価 2025年度の各学部学科、大学院の3つのポリシーを踏まえた点検・評価の項目の見直しと評価結果のフィードバックと改善事項に対する報告書を作成して学内の諸活動全てに、状況分析も含め、計画、実行、点検・評価・分析というPDCAサイクルを適用し、改善につながるシステムを確立して、実行する取り組み全ての進捗管理が出来るようにする。さらに、外部の意見も取り入れた自己点検・評価を実施する。</p> <p>・各学部学科が受審する認証評価機関の認証評価：データ及び、資料をIRに基づき蓄積し、準備を遅滞なく進める。</p>																																																												
⑨学生の学修時間や学修成果の把握による教育活動の見直し	<p>・アセスメントポリシーの点検・評価 直接評価：授業の課題や試験、ポートフォリオ、卒業論文、資格取得など 間接評価：授業内容や試験内容、学習時間、学生満足度など 本学の学習成果の測定内容を検討し、保健医療学部のアセスメントポリシーに合致した取組が行えているか、評価していく。</p>																																																												
⑩キャリア支援と地域社会への貢献	<p>・地域及びグループ病院施設への就職者数増に関する取り組みキャリア形成に必要な事業の企画、及び必要な情報の収集を行う。さらに、就職に関する情報収集や指導をグループと連携して、「グループ就職希望者の増加対策 ローラーアップ作戦（案）」を実施する。</p> <p>・グループ病院施設との連携による地域貢献（入試制度・奨学金・共同研究）グループ推薦入試制度を看護学科に加えて、リハビリテーション学科でも実施する。</p> <p>・授業料減免対象者に対し、学費を猶予することも検討する。 グループの保健・医療・福祉・教育機関と共同研究を進め、その成果を大学教育及び地域社会に還元を目指す。</p>	<p>・就職者数・率：就職希望者の就職率100%</p> <p>・グループへの就職率： [看護] 50%、[理学・作業] 50%</p> <p>・地域貢献事業：6事業(戸塚区4施設、学校1、施設1) (2025年度：6事業(戸塚区3施設、学校1、施設2))</p> <p>・中学校キャリア教育（職業体験等）：2回 (横浜市子どもアトベンチャーカレッジ、湘南学園中学校)</p> <p>・地域連携活動（公開講座）／前年は出張講義 2026年度実施目標：3回5講演 260名目標 2025年実施回数 5回7講座 252名 2023年実施回数 5回9講座 78名 ※2024年度は講演会20公演実施。</p>																																																											
⑪研究力向上に係る学内計画の策定	<p>・大学等のミッション・建学の精神等に基づき大学等の強みや特色を特定し、それを伸ばさせる研究計画の策定。大学等の個性・特色が発揮でき、将来性のある医学、看護、リハビリ、薬学等の全学融合的分野の研究や調査を推進し、戦略的な研究分野を確立する。</p> <p>・科研費採択：科研費等外部資金の申請・獲得の支援を行い、科研費採択者を前年度比15%増加させる。 ・専任教員等に占める博士号取得者の割合の増加：専任教員等に占める博士号取得者の割合を80%以上にする。</p>	<p>・科研費（申請）専任教員の全員（私学平均約1/3）</p> <p>・科研費（採択率）新規採択率20%以上 (2025年度26%17% [15/588/47件])</p> <p>・査読付き論文数 教員1人あたり2件（含共著）</p>																																																											

2026年度 湘南医療大学 薬学部 重点項目における事業計画概要

2026年度 薬学部 事業計画の重点目標項目	具体的な取り組み内容	目標数値・指標
① 改 革 一 経 常 費 合 支 援 補 事 業 金 の 獲 採 得 採 増 一 及 お び 私 立 重 大 学 等 目	1.全学的な教学マネジメント体制構築及びアセスメントプランの策定	<p>学長を中心とした、全学的な教学マネジメントの体制において、教職員の業務内容を整理・点検し、以下の取組を行う。</p> <p>A IR情報を活用し、教育課程の適切性検証と教育改善を行うサイクルを運用する。 B 大学全体レベル、学位プログラムレベルで大学教育の成果をアセスメントプランに則り点検・評価を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部を超えた教学マネジメント体制構築（学長・保健医療学部長・薬学部長・学科長・各学科カリキュラム編成担当教員他） ・会議体の設定（教務委員会・自己点検委員会） ・会議体の組織規程作成 ・カリキュラムの点検・評価スケジュール ・アセスメントプランの策定（大学全体・学部ごと）
	2.学修成果等の可視化・企業等との意見交換	<p>ディプロマサプリメント（学位証書や成績証明書の補足資料）など、各学生が修得した知識や能力等を明らかにするための取組を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマサプリメントの様式案の作成 ・グループ病院施設との意見交換会実施 ・外部のアセスメントテスト（PROGテスト）を1年次と4年次に行い、4年間の学修成果の評価を行う。 ・ICTツール活用し、学習成果を効率的に可視化する体制を構築する。
	3.IR情報を活用した教学改善の検討（教務の改善）	<p>ICTツールを導入し、学生に関する様々なデータの収集・分析を実施し、情報の提供を行うための専門職を配置するとともに、教学IRをきっかけとする教学改善の事例を情報公開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IR部門にて、IR情報を用いて、教学改善を検討し、実施する。 <ul style="list-style-type: none"> - 各種アンケート <ul style="list-style-type: none"> + 回収率向上の施策検討 + 横断的な分析(個別評価からの移行) <ul style="list-style-type: none"> 授業改善(個別および平均)の効果測定 - 定期試験、追再試験の詳細データおよび出席率、遅刻率とGPAとの関係 - 入学後ブレイスメントテストの結果を用いた初期能力の把握とGPAとの関連分析
	4.高等学校教育と大学教育の連携強化	<p>高等学校教育と大学教育の連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学等における学修を高校生が経験する取組（合同授業等）の実施 ・高等学校又は教育委員会との年2回以上の定期的な意見交換体制の構築 ・高等学校と大学等との合同研修の実施 ・高等学校と連携した入学前教育の実施 ・全重点校訪問・広報活動推進
	5.ICTを活用した教育の計画、体制整備及び双方向型授業や自主学習支援 などの実施	<ol style="list-style-type: none"> 1. ICTを活用した質の高い教育を実現するための全学的な計画 <ul style="list-style-type: none"> ・教育の質向上：対面×デジタルのハイブリッドによる専門職連携教育の高度化 ・環境整備計画：学内Wi-Fi整備（個人端末持込）の推奨とサポート体制構築 ・技術・教育支援体制：サポートデスク/ICT教育支援室的な体制整備 ・セキュリティ：医療情報を取扱う倫理に基づいた多要素認証の導入と、学生・教職員へのリテラシー教育 2. 支援体制の整備：『ICT教育支援室（またはヘルプデスク）』の設置と周知 3. 双方向型授業の実装：シラバスへの明記とクリッカー活用 4. 自主学習支援：LMS（学習管理システム）による「学習ログ分析」
②授業評価等の結果を生かした授業改善、教育活動改善への活用【継続】	<p>「学生による授業評価」学生の理解状況を教員が次の授業に生かせるようなりフレクションペーパーを作成するとともに評価の低い授業科目は、担当教員から改善計画書の提出を求め、結果をFD委員会で審議する。</p>	<p>授業評価アンケート専門科目 総合平均数値 [薬学] 85%以上</p>

2026年度 湘南医療大学 薬学部 重点項目における事業計画概要

2026年度 薬学部 事業計画の重点目標項目	具体的な取り組み内容	目標数値・指標
③学修支援・CBT/OSCE対策支援【継続】	<p>・学修支援の充実 新入生の入試等の成績で基礎学力を見極め、入学前教育や個別の学修支援に役立てる。また、全学において、1教員が10名程度の学生をサポートし、履修計画から学修指導、学生生活相談などにきめ細やかに個別で対応する。</p> <p>・CBT/OSCE対策支援 CBTに関しては、3年次から継続的なCBT演習を実施し、単位取得科目の習熟度を維持・向上させ、確固たる知識基盤を構築する。さらに、学内外の模擬試験を定期的実施することで、学生に本試験の雰囲気を感じさせ、本番での実力発揮を促す。さらに、模擬試験の結果を詳細に分析し、個々の学生の弱点克服と、カリキュラム全体の改善に役立てる。OSCE対策に関しては、低学年からの臨床系実習科目を活用し、合格に必要な技能・態度を段階的に習得させる。3年次後期から始まる事前実務実習Ⅰ、4年次からの事前実務Ⅱ・Ⅲを通して徹底した知識・技能・態度教育を行う。4年後期には、CBT/OSCEに特化した集中的な対策を実施し、合格に必要な要件を総点検する。なお、学生一人ひとりの状況を把握するため、チューター面談を随時実施し、特に成績低迷者には個別指導を行い、学修方法の改善や学習習慣の定着、モチベーション向上を支援する。</p>	<p>・学修支援 →定期試験追再試験受験者数の減少： 80%以上の定期試験合格率 →授業科目の合格者数の平均率80%以上 →入学前教育履修率100%</p> <p>・CBT/OSCE対策支援 →体験CBTでの得点率：50%以上 →CBT外部模擬試験での得点率：全国平均以上 →CBT最終合格率：95%以上 →OSCE：全員合格（2025年度に引き続き100%を維持）</p>
④各学部の定員確保【継続】	<p>【年内入試での定員充足率を高める】</p> <p>1、重点校の見直しと連携強化 ・2026年度年内入試における出願実績校を重点校として追加し、学校推薦型選抜における指定校推薦枠の保証する。 ・県内においては3学科共通の重点校を増やし、出張講義、医療系セミナー等の充実を図る。 ・学校推薦型選抜の指定校を薬学部のない県にも拡げる。</p> <p>2、オープンキャンパスを充実する。 ・オープンキャンパスにおける模擬授業や実習体験参加実績を総合型選抜に活用する。 ・オンラインでのオープンキャンパスを新設する。</p> <p>3、ホームページやSNSなどによる広報の充実 ・Instagram、X、LINEにおいて教員紹介のショート動画や授業紹介を積極的に行っていく。</p> <p>4、本学のブランド力の向上 ・本学にしかできない医療系複数学科の連携（チーム医療）を体験・実感できる環境づくり ・臨床実習をサポートするグループ病院の存在をアピールする ・入学前教育、S-プログラムによる手厚い学修支援に関する広報を行う</p>	<p>【薬学部 定員100名確保】 定員確保に向けて年内入試の充実を図る。</p> <p>①年内入試にて重点校より36名の出願者を確保する。(2025年度21名) ②大学全体資料請求者数：5000人(2025年度予測値：4500人) ③オープンキャンパス参加者数：240人(2025年度：171人) ④年内入試における重点校からの出願歩留率20%を目標とする。</p> <p>(オープンキャンパス→出願) ※2025年度実績：18%</p> <p>⑤出願者数年間210人→定員100名確保 ・年内入試：60名 ・年明入試：150名</p>

2026年度 湘南医療大学 薬学部 重点項目における事業計画概要

2026年度 薬学部 事業計画の重点目標項目	具体的な取り組み内容	目標数値・指標
⑤休退学者減少への取組【継続】	<p>本学の休退学者減少への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の学力や学習意欲を向上させるための教育プログラムや指導体制を充実させる。 ・学生の居場所や人間関係を作るためのコミュニティやチューターを提供する。 ・学生のメンタルヘルスや生活支援を行うための相談室や経済的支援を拡充させる。 ・ハラスメント対策として、学生が相談しやすい環境提供のため、ハラスメント相談員を教員のみならず、事務からも選任する。 ・学生の進路相談などのキャリア教育や情報を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・薬学部 休・退学率1.0%以下 <p>※【参考】</p> <p>2025年度（前期）休学1.9% 退学1.5%</p> <p>2024年度（前期）休学1.8%、退学0%</p> <p>2023年度休学4.7%、退学3.5%</p> <p>2022年度休学4.0%、退学8.9%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（薬学部）授業出席率80%以上、科目単位取得率90%以上
⑥FD・SD研修の充実【継続】	<ul style="list-style-type: none"> ・FD、SD研修の充実 <p>全体研修会（大学部会）及び医療・教育研究会において、FD 活動長期計画に基づき、教育方法と研究領域をテーマにした組織的で持続的な数多くのFD 活動を積極的に実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学運営方針を全体研修会時に、理念からスタートする <p>本学の理念を実現するために、今年度の方針、「入学定員の確保、休退学者の減少、教育の質の向上、FD/SD活動、医療・教育研究科会での研究成果の発表、グループ5つの活動」等、全体研修会に全教職員が参加して職員の資質・機能の向上及び改善を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休退学を減らし、自律的な学生を育てるための取り組み <p>学生の休退学減少と自主的学習を推進する。休退学の原因の主となるメンタル関連の情報、身体や家庭の事情の情報を早期に発見し、その後の有効な支援につなげる。また、学修を自主的に展開させるために有効な方法として、グループ学習、遠隔でデータを活用できる支援学習などの研修を実施し、実践する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体研修会 開催回数：5回 ・学科FD研修会回数：2回 ・各研修会の教職員参加率：100%
⑦3つのポリシーを踏まえた自己点検・評価及び認証評価への取組【継続】	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検・評価 <p>各学部学科、大学院の3つのポリシーを踏まえた点検・評価の項目の見直しと評価結果のフィードバックと改善事項に対する報告書（案）を作成して学内の諸活動全てに、状況分析も含め、計画、実行、点検・評価・分析というPDCAサイクルを適用し、改善につながるシステムを確立して、実行する取り組み全ての進捗管理が出来るようにする。さらに、外部の意見も取り入れた自己点検・評価を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学部学科が受審する認証評価機関の認証評価 <p>データ及び、資料をIRに基づき蓄積し、準備を遅滞なく進める。</p>	

2026年度 湘南医療大学 薬学部 重点項目における事業計画概要

2026年度 薬学部 事業計画の重点目標項目	具体的な取り組み内容	目標数値・指標
⑧学生の学修時間や学修成果の把握による教育活動の見直し【継続】	<ul style="list-style-type: none"> 学修成果の測定：アセスメントポリシーの評価アセスメントポリシーとして策定された以下の評価項目に関して、情報収集する。 在学中：GPA、単位習得状況、進級率、定期試験、授業評価アンケート、共用試験合格率、学内外模試成績、実務実習評価、卒業研究評価 卒業時：GPA、単位習得状況、薬剤師国家試験合格率、資格・免許取得状況 	<ul style="list-style-type: none"> 各評価項目の収集率 100%
⑨キャリア支援と地域社会への貢献【継続】	<ul style="list-style-type: none"> 1～6年生の年次ごとにキャリア支援ガイダンスを開催する。 インターンシップ実習(4、5生対象)を実施し、就職に関する意識を養成する。 ふれあいグループ内就職を促す一環として、人事部と共同でグループ内病院就職説明会の継続実施。 企業、薬局、病院、公務員等との合同説明会の開催に向けた協議を行う。 グループ病院施設及び地元薬剤師会との連携による地域貢献(入試制度・奨学金・共同研究)を進める。 グループ推薦入試制度の薬学部への導入を実施する。 グループの保健・医療・福祉・教育機関と共同研究を進め、その成果を大学教育及び地域社会に還元を目指す。また地元薬剤師会との連携を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> キャリアガイダンス開催回数 1年次: 早期体験実習内で実施 2年次: 前期1コマ、後期1コマ 3年次: 前期1コマ、後期1コマ 4、5年次: インターンシップ実習 6年次: 就職・進学相談の実施 地域貢献事業: 3事業(前年度3事業(24年度戸塚区2、神奈川県生涯学習センター1)) 中学校キャリア教育(職業体験等): 2回(横浜市子どもアドベンチャーカレッジ、オープンキャンパス(前年度0校)) ※地域連携活動(公開講座)を再開する場合 2023年実施回数 5回9講座 78名 2025年実施回数 5回8講座 86名(+10%)
⑩研究力向上に係る学内計画の策定【継続】	<ul style="list-style-type: none"> 大学等のミッション・建学の精神等に基づき大学等の強みや特色を特定し、それを伸長させる研究計画の策定 大学等の個性・特色が発揮でき、今後将来性のある医学、看護、リハビリ、薬学等の学融合的分野の研究や調査を推進し、戦略的な研究分野を確立する。 科研費採択 科研費等外部資金の申請・獲得の支援を行い、科研費採択者を前年度比15%増加させる。 専任教員等に占める博士号取得者の割合の増加 専任教員等に占める博士号取得者の割合を80%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 科研費(申請)専任教員の全員(私学平均約1/3) 科研費(採択率)新規採択率20%以上(2025年度17% [8/45件]) 厚生労働科研費 採択数 2件(現行2件) 査読付き論文数 教員1人あたり2件(含共著)
⑪薬剤師国家試験対策【新規】	<ul style="list-style-type: none"> 全教員による総合演習を構築・運用し、本学のディプロマポリシーを満たす人材輩出に向けて総括を行う。 薬剤師国家試験に合格するための総合的な基礎・応用力養うため、基礎知識の振り返り(インプット)と既存・オリジナル課題(アプトプット)を通じたシームレスな演習を1年間通じて実施する(前期45日、後期45日)。 さらに、外部模試の実施を通じた学生の習熟度に応じた個別・グループ演習を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合演習の出席率: 90%以上 単位取得率: 100% 必要時における個別・グループ演習の企画・実施率: 100%

2026年度 湘南医療大学大学院 保健医療学研究科 重点項目

番号	項目名	項目の説明
①	大学院教育の充実	<p>入学後の履修指導、研究指導の体制を充実させ、大学院生の研究教育活動の遂行に資する。</p> <p>(1) 履修指導の体系化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学ガイダンスの充実 ・個別履修計画書の指導 ・履修面談の徹底 <p>(2) 研究指導體制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主指導教員＋副指導教員制の徹底 ・研究進捗報告 ・研究倫理・審査体制・教育の徹底 <p>(3) 研究環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究費申請支援 ・研究活動・学会発表支援 <p>(4) 領域特性に応じた発展的評価と支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門資格(助産師、高度実践看護:専門看護師)、国家試験及び認定試験合格率の維持向上 ・修了生へのフォローアップ研修の実施
②	各領域の定員確保	<p>アドミッション・ポリシーを遵守した学生募集活動を展開し、定員確保を目指す。合わせて卒業生への情報提供を強化し、大学院生の受入れ体制を強化する。</p> <p>(1) 学部卒業生及びふれあいグループ組織や現場への情報提供の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院説明会・相談会の開催 ・研究成果・教育内容・修了後のキャリアに関する広報資料の整備 ・学部卒業生との大学院の交流機会の創出(発表会参加等) <p>(2) 大学院生の受入れ体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前相談体制(指導教員とのマッチング、研究テーマの相談)の整備 ・入学前教育・オリエンテーションの充実 ・学修環境(研究スペース、ICT環境、図書・データベース)の整備 <p>(3) 入学希望者のニーズとの合致、競合校の特徴(強み・弱み)や事例研究、本学の強み・特徴などを分析して、受験生が本学にアプローチする方法に対する広報の強化を図る。</p> <p>(4) 本学のホームページ・SNSなどのオンライン活動の比重を増やし、タイムリーに情報発信を行う。</p>

③	休退学者減少への取組	休退学者減少への取組は、大学の役割や社会的責任を果たすために必要なことであり、大学の魅力やブランド力を高めることにも繋がる。大学院生の休退学の兆候を早期に教員が発見し、適切な支援を行い、年間休退学率を各領域2名以下に抑える。
④	博士後期課程の完成年度の遂行	<ul style="list-style-type: none"> ・完成年度を迎える博士後期課程では、博士論文審査の実施を適正に遂行する。 ・完成年度に向けて、修士課程との教育と研究の連携発展を図り、博士課程前期後期制度の検討を開始する。
⑤	FD・SD 研修	全体研修会(大学部会)および医療・教育研究会において、FD 活動長期計画に基づき、教育方法と研究領域をテーマにした組織的で持続的な数多くの FD 活動を積極的に実施する。また、新たな社会的価値の創造のため、研究の重点化を図り、戦略的な研究分野を確立する。

茅ヶ崎看護専門学校	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	湘南医療大学附属下田看護専門学校	医療ビジネス観光福祉専門学校
<p>【重点項目】 国家試験合格率 100% 退学者ゼロ</p> <p>【目標内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学年定員確保 ② 休退学の防止 ③ 学習支援（基礎学力の向上） ④ 国家試験の合格率 100% ⑤ 就職指導（ふれあいグループ教育部門としての使命） 	<p>【重点目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 理念の実践 ② 国家試験の合格率 100%を目指す ③ 休退学の防止 ④ ふれあいグループへの就職の促進 ⑤ 授業評価等の結果を活かした授業改善 	<p>【重点目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 休退学防止 ② 学習支援 ③ 国家試験（資格試験）合格率 100% ④ 就職指導（ふれあいグループ教育部門としての使命） 	<p>【重点目標】</p> <p>1. 魅力ある学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 高専連携および日本語学校との関係強化 ② 2026 年度より開講する医療ビジネス学科の改組による新コースのツアーリズムビジネスコースの運用 <p>2. 退学者・除籍者を出さないための魅力ある授業の確立と学生満足度の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 魅力あるカリキュラム編成 ② 教務と事務との連携による学生サポートの徹底 <p>3. ふれあいグループに有益な人材を供給する</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 介護福祉学科 介護福祉士 ② 医療ビジネス学科 医療事務、総務、医療情報 <p>4. 資格試験の合格者を増加させるだけでなく、社会人として活躍できる人間力の強化</p> <p>5. 教職員個々のポテンシャルを高め、学校全体の組織力強化を図る</p>

V 財政計画

学校法人 湘南ふれあい学園 2026（令和 8）年度予算基本方針

本学園の永続的な維持・発展に向けて、安定した財政基盤の確立を図りつつ、教育・研究・地域貢献の一層の活性化を進める。

I. 本学園の財政状況

令和 8 年度の収入面は、湘南医療大学保健医療学部看護学科 25 名増員、リハビリテーション学科理学療法専攻 20 名増員、薬学部 6 年目の学生増による収入増で 2,637 百万円の学生生徒納付金収入を計上し、前年度比 1 億 5,407 万円の増収となるものの、薬学部、2 看護専門学校の収容定員未充足、及び茅ヶ崎リハビリテーション専門学校の募集停止等により、学納金の機会損失予測である。

また、茅ヶ崎キャンパスの開設により、教育研究環境の向上及び施設、設備等の整備に伴う財源確保のため、組織の改編並びに一層の財政状況の強化を図る必要がある。

II. 2026（令和 8）年度予算編成の基本方針

1. 財務指標

学園の事業計画の達成並びに経常収支差額の支出超過の減少に努めることを目標とする。

2. 基本的な考え方

(1) 収支構造の見直し

学生募集対策を最優先とした予算措置を講じる。特に、湘南医療大学薬学部および湘南医療大学附属下田看護専門学校においては、入学定員充足率の向上を目的として授業料等の減額措置を実施する。

一方で、学部 3 キャンパス体制の維持、看護学部およびリハビリテーション学科の定員増、並びに薬学部の完成年度に伴う人件費及び教育研究経費は、必要最小限の増加に留める。また、収容定員充足率の低下を踏まえ、管理経費については緊縮的な予算編成とするが、消耗品費や水道光熱費の増加、円安の影響、原材料価格の高騰等によるコスト上昇分は適切に見込む。

(2) 人件費

人件費は、設置基準及び収支状況を踏まえた人事計画に基づく予算措置を行う。特に、新キャンパス設置に伴う看護教育職員、及びリハ学科定員増に伴う教職員の増員が見込まれるが、学園の教職員の異動、若手教員や契約職員の採用などにより人件費の抑制に努める。

(3) キャンパス整備事業

湘南医療大学茅ヶ崎キャンパスの学年進行に伴う施設整備に係る必要額の予算措置を行う。当該予算の財源確保は、自己財源及び寄付金を充当する。

湘南医療大学附属下田看護専門学校及び医療ビジネス観光福祉専門学校の学生募集停止に伴う校地校舎の活用について、グループ施設での有効利用や売却を含めて多角的に検討する。

1. 資金収支予算書

2026（令和 8）年度予算における収入は、学生生徒等納付金収入 30 億 7,244 万円、手数料収入 3,865 万円、補助金収入 7 億 5,593 万円、付随事業・収益事業収入 2,218 万円、前受金収入 15 億 3,934 万円などの収入に前年度繰越支払資金 25 億 1,951 万円を加えた収入合計は 64 億 8,033 万円を見込んでいる。また、支出は、人件費支出 23 億 6,086 万円、教育研究経費支出 15 億 7,515 万円、管理経費 3 億 7,484 万円、施設関係支出 3,775 万円、設備関係支出 5,300 万円など、収入合計からこれを差し引いた翌年度繰越支払資金は 17 億 4,857 万円を予測している。

2. 事業活動収支予算書

2026（令和 8）年度予算における事業活動収入は 39 億 9,682 万円、事業活動支出は 49 億 5,235 万円となり、経常経費差額は、9 億 2,926 万円の支出超過、基本金組入前当年度収支差額は 9 億 5,552 万円の支出超過を見込んでいる。

（資料）2025（令和 7）年度校正予算—2026（令和 8）年度予算対比表

2025校正予算と2026予算対比表

資金収支
収入の部

(単位：円)

科 目	2025年度補正（校正）予算	2026年度予算	差異
学生生徒等納付金収入	2,918,370,684	3,072,443,740	154,073,056
手数料収入	45,646,000	38,656,000	△ 6,990,000
寄付金収入	295,008,000	0	△ 295,008,000
補助金収入	786,401,800	755,937,000	△ 30,464,800
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	22,352,000	22,189,500	△ 162,500
受取利息・配当金収入	3,983,000	2,181,000	△ 1,802,000
雑収入	93,948,270	97,880,070	3,931,800
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	1,569,476,500	1,539,340,050	△ 30,136,450
その他の収入	42,767,500	43,051,000	283,500
資金収入調整勘定	△ 1,507,689,000	△ 1,610,857,500	△ 103,168,500
前年度繰越支払資金	3,110,868,594	2,519,518,790	△ 591,349,804
収入の部合計	7,381,133,348	6,480,339,650	△ 900,793,698

支出の部

科 目	2025年度補正（校正）予算	2026年度予算	差異
人件費支出	2,312,586,000	2,360,860,000	48,274,000
教育研究経費支出	1,394,403,700	1,575,156,900	180,753,200
管理経費支出	390,631,000	374,845,000	△ 15,786,000
借入金等利息支出	42,991,000	43,260,000	269,000
借入金等返済支出	244,147,000	243,890,500	△ 256,500
施設関係支出	210,250,000	37,750,000	△ 172,500,000
設備関係支出	72,350,000	53,000,000	△ 19,350,000
資産運用支出	3,000,000	3,000,000	0
その他の支出	550,403,739	416,327,038	△ 134,076,701
予備費	(30,000,000)	(30,000,000)	0
資金支出調整勘定	△ 389,147,881	△ 406,326,068	△ 17,178,187
翌年度繰越支払資金	2,519,518,790	1,748,576,280	△ 770,942,510
支出の部合計	7,381,133,348	6,480,339,650	△ 900,793,698

事業活動収支

(単位：円)

科 目		2025年度補正（校正）予算	2026年度予算	差異	
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	2,918,370,684	3,072,443,740	154,073,056	
	手数料	45,646,000	38,656,000	△ 6,990,000	
	寄付金	299,958,000	2,140,000	△ 297,818,000	
	経常費補助金等	786,401,800	755,937,000	△ 30,464,800	
	付随事業収入	22,352,000	22,189,500	△ 162,500	
	雑収入	92,430,070	97,880,070	5,450,000	
	教育活動収入計	4,165,158,554	3,989,246,310	△ 175,912,244	
	事業活動支出の部	人件費	2,343,326,000	2,393,650,000	50,324,000
		教育研究経費	1,873,433,700	2,060,186,900	186,753,200
		管理経費	438,196,000	423,596,000	△ 14,600,000
徴収不能額等		0	0	0	
教育活動支出計		4,654,955,700	4,877,432,900	222,477,200	
教育活動収支差額		△ 489,797,146	△ 888,186,590	△ 398,389,444	
教育活動外収入の部	受取利息・配当金	3,983,000	2,181,000	△ 1,802,000	
	その他の教育活動外収入	0	0	0	
	教育活動外収入計	3,983,000	2,181,000	△ 1,802,000	
	教育活動外支出の部	借入金等利息	42,991,000	43,260,000	269,000
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	42,991,000	43,260,000	269,000
教育活動外収支差額	△ 39,008,000	△ 41,079,000	△ 2,071,000		
経常費差額	△ 528,805,146	△ 929,265,590	△ 400,460,444		
特別収支	資産売却差額	0	0	0	
	その他の特別収入	8,368,200	5,400,000	△ 2,968,200	
	特別収入計	8,368,200	5,400,000	△ 2,968,200	
	資産処分差額	2,045,001	1,660,000	△ 385,001	
	その他の特別支出	127,380,000	0	△ 127,380,000	
	特別支出計	129,425,001	1,660,000	△ 127,765,001	
特別収支差額	△ 121,056,801	3,740,000	124,796,801		

[予備費]	(30,000,000)	(30,000,000)	0
基本金組入前当年度収支差額	△ 679,861,947	△ 955,525,590	△ 275,663,643
基本金組入額合計	△ 357,948,000	△ 257,548,000	100,400,000
当年度収支差額	△ 1,037,809,947	△ 1,213,073,590	△ 175,263,643
前年度繰越収支差額	△ 4,743,707,493	△ 5,821,517,440	△ 1,077,809,947
基本金取崩額	0	0	0
翌年度繰越収支差額	△ 5,781,517,440	△ 6,994,591,030	△ 1,213,073,590

(参考)

事業活動収入計	4,177,509,754	3,996,827,310	△ 180,682,444
事業活動支出計	4,857,371,701	4,952,352,900	94,981,199

3. 主要財務指標

比率名	算出方法	令和7年度 予算	令和8年度 予算	全国平均 (R5)
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	57.4	59.3	47.0
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	75.2	73.1	59.7
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	41.4	51.0	38.4
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	10.3	10.5	7.3
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	-10.8	-23.9	7.4
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入-基本金組入額}}$	104.2	115.2	101.2
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	74.0	76.1	78.8
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	7.0	0.0	1.8
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	15.0	18.9	10.7
減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	12.2	10.8	12.1
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	-10.1	-10.1	7.1
教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	-9.0	-23.0	5.4
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	-6.3	-6.4	8.5

VI 監査計画

学校法人湘南ふれあい学園監事監査規程第4条の業務監査及び財産の状況監査について、監事が作成する2026年度監査計画に基づき、監事監査を実施するとともに、監事、会計監査人及び内部監査班との連携を強化する。また、監査対象の監査報告に対する意見聴取を行い、今後の監査に活かす。

監査の対象

- ・業務監査：理事、湘南医療大学、湘南医療大学附属下田看護専門学校
- ・学校会計監査：公認会計士と連携

監査の方法

- ・理事会、評議員会等の主要な会議に出席
- ・各学校（園）の業務監査を、監事が学長、学校長とヒアリング形式で実施する。
- ・公認会計士と監事が面談による会計監査を実施する。

監査の実施時期

- ・定期監査（業務監査）内部監査終了後、2026年12月～2027年3月の間に実施
- ・内部監査（2026年8～9月頃予定）は、内部監査班が実施
- ・会計監査（2027年4～5月）は、公認会計士、内部監査班と連携して実施

監査報告書の作成

監査報告書

- （業務監査） 2027年3月までに報告する
- （会計監査） 2027年5月